

令和2年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

鈴鹿市クリーンセンター整備事業PFI導入可能性調査 (調査対象箇所：三重県鈴鹿市上野町630番地)

【調査主体】鈴鹿市

調査対象事業の概要／施設の概要

施設概要 : 汚泥再生処理センター
施設規模 : 処理能力 156kl/日(し尿18kl/日, 浄化槽汚泥138kl/日)
事業期間 : 工事 令和6~8年度
維持管理 令和9年度より15年
場所 : 鈴鹿市上野町地内
用地確保 : 市有地
処理方式 : 水処理(浄化槽汚泥の混入比率の高い脱窒素処理方式)
資源化 : 助燃剤化

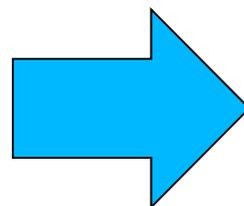
検討経緯等

①既存の老朽化した施設(昭和63年10月稼働)を更新し, し尿・浄化槽汚泥・集落排水汚泥の適正処理を図るため, 平成29年に鈴鹿市し尿・汚泥処理施設整備基本構想を作成した。
②鈴鹿市PFI導入基本指針(2017年3月改定)で施設整備に要する経費が, 概ね10億円以上の事業はPFI手法の導入を検討することと規定されているため, 簡易な検討を行った。
③検討の結果, 令和2年度行政経営会議にてPFI導入可能性調査を実施することを決定した。

事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

【調査・検討内容】

- ①施設整備内容, 調査概要の整理
調査の目的・内容・手順の整理
- ②事業手法検討に係る基礎調査
概略事業スキーム, 事例調査, 法的課題, 支援処置等の整理
- ③民間活力導入手法の検討
事業方式, 事業期間, 業務分担等の検討
- ④事業参入意向調査
民間事業者が検討し, 回答した内容の分析・整理



- ※定量的評価(VFMシミュレーション)
事業方式ごとに経済性評価(PSC, LCC, VFM)を行う
- ※定性的評価
定性的な評価項目を整理し, 事業方式ごとに定性的評価を行う
- ※総合評価
評価の視点により, 結果等のまとめを行う

令和2年度 民間資金等活用事業調査費補助事業

鈴鹿市クリーンセンター整備事業PFI導入可能性調査

(調査対象箇所：三重県鈴鹿市上野町630番地)

【調査主体】鈴鹿市

調査の流れ／調査内容

- (1) 施設整備内容の整理
 - ・鈴鹿市PFI推進委員会と行政経営会議(市の最高意思決定会議)にて審議
 - ・整備の方向性決定
- (2) 事業手法検討に係る基礎調査
 - ・概略事業スキームの検討
 - ・事例調査
 - ・法的課題の整理
 - ・支援処置の検討
- (3) 民間活力導入手法の検討
 - ・事業手法の抽出・設定
 - ・委託範囲検討
 - ・リスク分担
 - ・事業期間の検討
- (4) 事業参入意向調査, 取りまとめ
- (5) 定量的評価
 - ・VFMの算定, 各費用の設定
- (6) 定性的評価
- (7) 総合評価

事業化検討

【公設公営】

市が事業主体となることから、住民への安心感は、最も高いと評価された。しかし、行政手続、運営におけるリスク及び維持管理費の負担については、削減は見込まれない(従来どおりの財政支出見込み)。

【DB+O】

公設公営に対する財政支出の削減率(VFMシミュレーション)は、2.7%とDBOに次いで大きかった。また、定性的評価ではDBOに次いで高く評価された。

ただし、運営時は、民間事業者が主体となることから、効率が重視されると懸念され、住民に不安を与える可能性がある。そのため、市の適切な関与や監視体制を整えることで、安全性を確保する必要がある。

【DBO】

公設公営に対する財政支出の削減率(VFMシミュレーション)は、3.6%と最も大きかった。また、定性的評価でも最も高い評価であった。

ただし、運営時は、民間事業者が主体となることから、効率が重視されると懸念され、住民に不安を与える可能性がある。そのため、市の適切な関与や監視体制を整えることで、安全性を確保する必要がある。

今後の進め方

【令和4～5年度】

※定性的評価では、「DBO」に優位性があると評価されたため、DBO方式で事業を進める。

- ・事業者選定アドバイザー等業務委託契約締結
- ・要求水準書設定
- ・環境調査

想定される課題

※運転状況の監視

民間事業者によるセルフモニタリングが前提となるため、直接監視できない分、市による運転状況の監視コントロールがやや困難

※災害等の緊急時対応

災害等の緊急時や、市の施策変更等において、契約範囲外の事業を行う場合は、契約変更等の協議が必要となる。